

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 75人 国語B 75人

② 算数A 75人 算数B 75人

5 留意事項

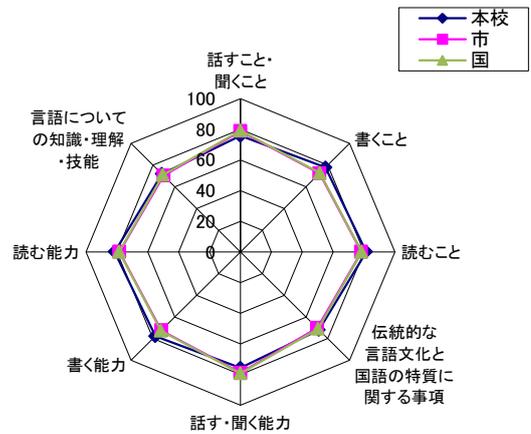
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

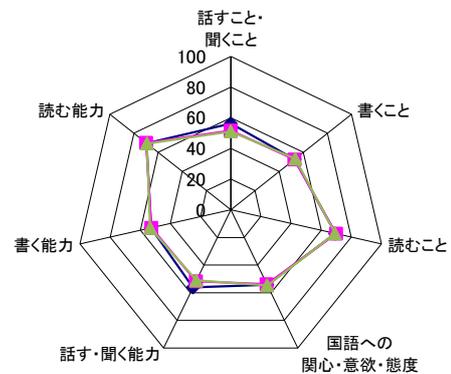
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	75.7	78.8	79.2
	書くこと	77.9	72.4	72.8
	読むこと	81.4	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.9	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	75.7	78.8	79.2
	書く能力	77.9	72.4	72.8
	読む能力	81.4	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	71.9	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	56.2	51.7	51.1
	書くこと	52.9	52.7	53.4
	読むこと	69.5	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	54.3	53.8	54.7
	話す・聞く能力	56.2	51.7	51.1
	書く能力	52.9	52.7	53.4
	読む能力	69.5	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

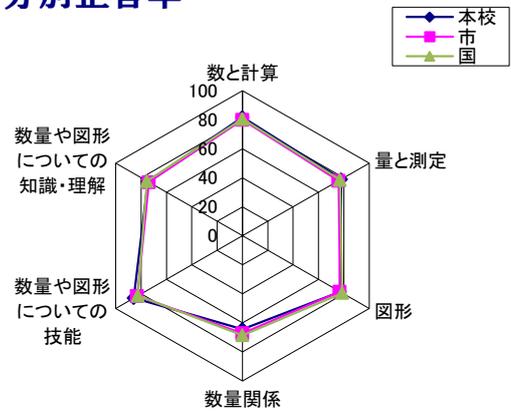
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○B領域の平均正答率は56.2%で、全国平均を5.1ポイント上回っている。その中でも、「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する」問題については、全国平均を10ポイント以上上回っている。</p> <p>●A領域の平均正答率は75.7%で、全国平均を3.5ポイント下回っている。「話し合いの目的や意図を捉える」問題について課題がある。</p>	<p>・国語科の授業はもちろんのこと、他教科においても、「何のために話し合いを行うのか」ということを明確にしながら、話し合いの指導を行っていく。</p>
書くこと	<p>○A領域の平均正答率は77.9%で、全国平均を5.1ポイント上回っている。「書き手の表現の仕方」や「書く事柄を整理する」問題について、全国平均を4ポイント以上上回っている。</p> <p>●B領域の平均正答率は52.9%で、全国平均を0.5ポイント下回っている。「資料を基に自分の考えを書く」問題について課題がある。</p>	<p>・目的や意図に応じて、グラフや表、写真資料などを基に自分の考えを書く機会を多く設ける。</p> <p>・目的や意図に応じて伝えたい内容が十分に伝わるように、事実と意見を明確に区別する文章を書く機会を設けていく。</p> <p>・書くことに苦手意識を持っている児童については、個に応じた指導を行っていく。</p>
読むこと	<p>○A領域の平均正答率は81.4%で、全国平均を2.9ポイント上回っている。そして、B領域の平均正答率は69.5%で全国平均を0.2ポイント上回っている。説明文・物語文ともに、読み取る力が身に付いている。</p> <p>●「自分の考えを明確にしながら読む」問題について課題がある。</p>	<p>・司書教諭と連携しながら、日常の読書指導を充実させていく。</p> <p>・国語科の「読み取り」を行う授業の中で、説明文や物語文の筆者の考えに対して、自分の考えを明確にする機会を設けていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○平均正答率は71.9%で、全国平均を0.8ポイント上回っている。漢字の読み取りや書き取りの力が身に付いている。</p> <p>●ローマ字の読み取りや書き取りについて課題がある。</p>	<p>・漢字指導については、継続して繰り返し学習を行う。また、定着を図るために、小テストや単元末テストを活用する。</p> <p>・国語科の授業だけでなく、英会話やパソコン指導の中でも、ローマ字に触れる機会を多く設けていく。</p>

宇都宮市立御幸小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

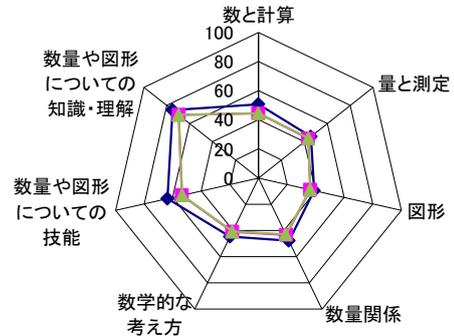
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	81.7	79.9	80.5
	量と測定	77.9	75.9	77.0
	図形	77.1	76.9	78.8
	数量関係	64.3	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	85.7	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	74.7	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	50.7	44.5	44.4
	量と測定	45.7	43.5	43.7
	図形	39.0	36.2	36.3
	数量関係	47.9	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	44.8	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	63.6	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	75.0	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の平均正答率は、A、Bともに全国を上回っている。特にBでは、全国の平均を6ポイント以上上回っている。 ●数の大小関係の理解については課題が見られる。	・授業の始めに計算ストレッチを取り入れ、くり返し取り組んできたことが計算力の向上につながっていると思われる。今後も習熟度別学習を生かし、個に応じた指導の充実を図る。
量と測定	○本校の平均正答率は、A、Bともに全国を上回っている。 ●単位量あたりの大きさの求め方の理解については、課題が見られる。	・単位量あたりの大きさの求め方については、定着が図れるよう復習のための練習問題に取り組ませる。
図形	○本校の平均正答率は、Bにおいては全国を2.7ポイント上回っている。 ●直方体における面と面の位置関係の理解については、全国の平均正答率を5.1ポイント下回った。	・習熟度別少人数指導により、よりきめ細かな指導を行うことで、図形についての定着を図っていく。
数量関係	○本校の平均正答率は、Bにおいては全国を5ポイント上回っている。 ●示された場面を適切に読み取る設問では、全国の平均正答率を10.2ポイント下回った。 ●1を超える割合を百分率で表す場面においては、基準量と比較量の関係の理解については、正答率が47.1%と半数を下回っている。	・場面を図に表して考えるなどして理解に結びつくようにしていく。 ・数多くの練習問題に取り組ませることで、定着を図るようにする。

宇都宮市立御幸小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思う」の回答では、83.7%の児童が肯定的に回答しており、全国の肯定割合を上回った。互いの良さを認め合う活動を取り入れたり、「いじめゼロ月間」や道徳の時間などに人権について考える機会を設けたりしていることの成果が表れていると考えられる。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」と回答した児童の割合は、96%で全国の肯定割合を上回っている。話の聞き方については、授業中や集会時、くり返し呼びかけてきた成果が表れていると考えられる。

●「学校の宿題をしている。」と回答している児童は98.6%と高いのに対し、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」と回答した児童の割合は50%と半数である。また、「学校の授業の予習をしている」や「復習をしている」については、いずれも30%に届かない。学年だよりを通して家庭学習の大切さについて家庭に呼びかけたり、家庭学習強化月間を設けたりして向上に努めているが、今後も発達段階に応じて主体的に家庭学習に取り組む態度を育てていけるよう取り組みを推進していきたい。